

令和六年度 古事記学会・上代文学会合同大会 大会案内

本年度大会（古事記学会との合同大会）を左記の日程により開催いたしますので御案内申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、今年度大会も対面／オンライン併用で開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。なお、今後の感染状況によりましては、全面オンラインとなる場合もあります。HPで最新情報をご確認下さい。

また、古事記学会の理事会・総会の日程は、左記とは異なります。古事記学会の会員の方は、古事記学会からの案内も合わせてご確認ください。

令和六年四月一日

上代文学会

一六二・八六四四 東京都新宿区戸山一・二四・一

早稲田大学文学術院 二五〇四研究室内

Eメール jimukyoku@jodaibungakukai.org

会員各位

記

◇期 日 令和六年五月十八日（土）、十九日（日）、二十日（月）

◇会場 十八日（土）ノートルダム清心女子大学

岡山県岡山市北区伊福町二・十六・九

JR西日本「岡山駅」下車徒歩十分

十九日（日）岡山大学 津島キャンパス

岡山県岡山市北区津島中三・一・一

JR津山線「法界院」下車徒歩十分、JR西日本「岡山駅」西口よりバス十五分（岡大東門または岡大西門バス停下車）

※土曜と日曜で会場が異なりますのでご注意ください。

◇日程（懇親会を除き全てオンライン併用で行います）

※当日の進行によって、時間が前後する場合がございます。

十八日（土）

○理事会（午前十一時～十一時四十五分）

○講演会（午後二時～五時） ノートルダム清心女子大学ヨゼフホール三階 三〇〇教室

開会挨拶

大会運営校挨拶

上代文学会代表理事

早稲田大学非常勤講師

工藤 浩

講演会テーマ「古代の吉備・播磨」

ノートルダム清心女子大学副学長

豊田 尚吾

吉備津采女の歌

——柿本人麻呂と「われ」と——

駒沢女子大学教授

三田 誠司

『播磨国風土記』と文化圏

——山の道・海の道、そして吉備

埼玉大学教授

飯泉 健司

吉備と倭王権

○古事記学会奨励賞・上代文学会賞贈呈式（午後五時～五時十分）

岡山大学教授

今津 勝紀

○総会（午後五時十分～五時五十分）

○懇親会 ノートルダム清心女子大学

学生会堂 午後六時～

会費 一般六、〇〇〇円／学生（院生）四、五〇〇円

十九日（日）

○研究発表会（午前十時～十四時三十分）

岡山大学教育学部講義棟二階 五二〇二教室

《午前の部》（午前十時～）

タカテラス・タカヒカル小攷

青山学院大学院博士後期課程

西澤 駿介

（司会）

筑波大学助教

茂野 智大

遣新羅使人らの旅程

早稲田大学院博士後期課程

榎戸 涉吾

（司会）

京都女子大学准教授

池原 陽斉

——休憩——

《午後の部》（午後一時～）

「霞たなびく『春』」〜巻十による景物の形象〜

史書に「諱」を記すこと——『先代旧事本紀』の場合——
同朋大学専任講師
(司会) フェリス女学院大学教授

桃山学院大学講師
(司会) 都留文科大学准教授

山崎 健太
松田 浩
星 愛美
小村 宏史

——休憩——(午後二時四十分〜二時五十分)
『日本霊異記』における「天」の表現——天皇との関係から——

和洋女子大学准教授
(司会) 京都精華大学教授
大塚千紗子
是澤 範三

閉会挨拶

千葉大学教授
(司会) 國學院大學准教授
古事記学会代表理事 学習院女子大学名誉教授

兼岡 理恵
渡邊 卓
神田 典城

○図書展示 五月十八日(土)に、ノートルダム清心女子大学附属図書館特殊文庫資料展覧
(中央棟七階 特殊文庫閲覧室)を行います(午前九時三十分〜午後六時)。

二十日(月)
○臨地研究 ※学会から特に案内は致しません。

☆参加申込について
・次のQRコードから上代文学会HPの大会申込フォームに入って頂き、必要事項を記入して四月二十二日(月)までに必ずお申し込み下さい。古事記学会との共通フォームとなりますので、どちらかの学会からお申し込みをお願致します(両方からお申し込みいただく必要はありません)。



・大会参加費は徴収致しません。
・十八日の理事会に対面でお出される方には、お弁当をご用意できます。必要な方は、事前に振込用紙にて一、〇〇〇円を振り込んでください。
・懇親会ご参加の方は、事前に振込用紙にて参加費(一般六、〇〇〇円/学生・院生四、五〇〇円)を振り込んでください。
・十九日の昼食を申し込みました方は、事前に振込用紙にて一、〇〇〇円を振り込んでください。
・振込用紙は古事記学会の大会案内にも同封されており、重複してご入金されませんよう、お願い申し上げます。なお、二日目の会場(岡山大学津島キャンパス)周辺にはコンビニ等はありませんので、各自ご用意ください。
・各種お振り込みは、四月二十二日(月)までにお願致します。

☆出張依頼状について
・出張依頼状は、学会事務局(早稲田大学文学学術院)に、提出先と職名を明記の上、返信用封筒に八四円切手を貼ってお申し込み下さい。古事記学会に申請される方は、別途、古事記学会からのご案内をご確認ください。

☆宿泊について
・学会から特に案内は致しませんので、参加者は各自ご手配下さい。

☆大会に関するお問い合わせ

ノートルダム清心女子大学文学部 東城敏毅研究室
〒七〇〇・八五一六 岡山県岡山市北区伊福町二・十六・九
Eメールアドレス tojyo@m.ndsu.ac.jp
岡山大学教育学域 松田聡研究室
〒七〇〇・八五三〇 岡山県岡山市北区津島中三・一・一
Eメールアドレス manyo@okayama-u.ac.jp

令和六年度 古事記学会・上代文学会合同大会 講演要旨
講演会テーマ「古代の吉備・播磨」

吉備津采女の歌 —— 柿本人麻呂と「われ」と ——

駒沢女子大学教授 三田 誠司

万葉集巻第二挽歌の部の後半に位置する「吉備津采女死時柿本朝臣人麻呂作歌」(2・二一七〇九)は問題の多い作品である。まず、題詞には「吉備津采女」の死に際しての作とありながら、反歌においては「志賀津の子」「大津の子」への哀悼が示される。この相違をどう受け止めるべきか。また、この女性の死を「梓弓音聞くわれ」が「おほに見しこと悔しきを」と言うのだが、死者に対しては第三者的立場にあると思われる「われ」が偲びの主体として現れるのはなぜであろうか。その「われ」の叙述に続いては死者の夫の様子が描かれる。先行研究(身崎寿「吉備津采女挽歌試論」他)が示すように、その「夫(つま)」を持ち出して、自らの哀惜の念と「夫」の哀惜の念を二重写しにしたと見られるけれども、「われ」の「おほに見し こと悔しきを」の残念さと、「夫」の「悔しみか 思ひ恋ふらむ」との残念さとは、意味合いが異なるのではないか。この歌の問題点は、悼まれる対象の女性と、悼む主体の「われ」とに集約できるように思われる。

この「われ」を作者人麻呂から解き放ち、「われ」は天智天皇であると説く上野理氏(「吉備津采女挽歌と恩詔の構造」)の考察は、読みの可能性として興味深い。結論としては従えないが、「われ」を作者人麻呂と同一視することへの問いかけとして受け止めた。

また、本作について、沢瀉久孝『注釈』の虚構説を受けつつ、持統朝の悲劇(吉備津采女)と近江朝の悲劇(「志賀津の子」)とを重ね合わせたと見る伊藤博氏(『釈注』等)の立場は、題詞と反歌の齟齬に関する一つの解決策ではあるものの、人麻呂がなぜ近江朝の悲劇を持ち出したのか、その理由について明瞭とはいえない。が、主体である「われ」について考察することが、「吉備津采女」と「志賀津の子」との関係性を捉え直すことにもつながるように思われる。本講演では本歌の意義を少しなりとも明らかにすることを目指したい。

『播磨国風土記』と文化圏——山の道・海の道、そして吉備

埼玉大学教授 飯泉 健司

吉備国・播磨国は瀬戸内文化圏に属する。瀬戸内は、海路による海の文化圏である。

ところが『播磨国風土記』託賀郡には、瀬戸内文化圏を拒否するような説話が載る。丹波国の氷上刀売が讃岐日子の求婚を拒否する話である。また託賀郡には、播磨国託賀郡を丹波国の一部とする説話も載せる。

播磨国の東北は丹波国。加古川を遡上すれば、丹波国、日本海に到着する。丹波国は山陰道によって都・山陰と交流し、近江にも通じる。これは山の文化圏である。

山陽道が整備される以前、山崎断層(自然道)や出雲道といった、山陰に通じる古い道があった。これらの道を通して、播磨は丹波・但馬・出雲・伯耆・因幡・美作と交流する。

このように見てくると、丹波を中心として東西南北が交流する「丹波文化圏」が想定できそうである。山の道が結ぶ山の文化圏ということになる。

丹波文化圏は、瀬戸内文化圏とは異なる文化や物が交流するルートであった。

しかし大和人は、この異なる二つの文化圏が吉備で一本化すると考えていたようだ。そのことは仁徳記の吉備の黒日売説話からうかがえる。

夙に原田留美・藤原享和が指摘するように、黒日売説話は仁徳天皇が「山海の政」を掌握することを物語っていると考えられる。山の政と海の政とが吉備国で一本化する、と大和人は考えていた。この山の政・海の政には、海の文化圏（瀬戸内文化圏）と、山の文化圏（丹波文化圏）という異なる二つの文化圏の存在が影響しているであろう。

天皇は三つの権力、則ち「山海の政」「食国の政」「天津日継」をもつ。その一つ「山海の政」が吉備で完結する。

『播磨国風土記』から想定しうる文化圏を通して、大和人の〈吉備観〉について考える。

吉備と倭王権

岡山大学教授 今津 勝紀

現在の日本古代史研究の大きな課題の一つに、国家形成の問題を人類普遍の文脈に位置づけ直すことがある。日本古代における国家形成のプロセスは、列島社会の複雑化と捉え直すことができるが、列島社会を統合する王権は、さまざまな地域間の対立や融合などの過程をへて形成される。つまり、地域史的分析を欠いて王権を論じることは、アプリアリに自明の国家を想定することにもつながりかねないのであるが、ここでは吉備を軸にして、列島社会の複雑化の問題について考えてみたい。神話・伝承にみえる吉備、地域政体としての吉備の形成、吉備の反乱伝承と朝鮮半島情勢、列島社会の構造変動と地域社会の変容について取り上げる。

列島社会の歴史的特質を考える上での条件の一つが、古くに中国大陸で形成された文明の周縁の辺境に位置すること、もう一つは、海により大陸・半島から隔てられていることがある。しかも、絶対に渡ることのできない距離ではなく、視認可能な距離で隔絶されている。圧倒的な文化的格差が中国社会との間には存在し、稀少金属や威信を示す財、鉄などの必需物資はいずれも海の彼方の「財土」たる朝鮮半島に存在した。

大陸・半島との窓口になったのは北部九州であり、人と物との交流が弥生時代にはじまった。そうした先進文物へのアクセスは当初北部九州が窓口であったが、そこが列島社会の中心をなすことはなかった。列島は吉備やタニハ・コシ・ケヌなどの地域政体が分節していたが、広域の交通の結節点となったのはヤマトであった。ヤマトはタニハを介して日本海側の交通と接続しており、出雲を勢力下におさめたこともそのような交通の問題として考えることができるだろう。そうしたヤマトを核とする交通に抜きがたく組み込まれていたのが吉備であった。

列島外へのアクセスには渡海技術が必須であり、それを有する勢力が優位となるが、造船集団である山部を配下にもつ上道臣や吉備海部直などの吉備の諸集団は瀬戸内海の交通だけでなく、朝鮮半島南部とも結びつくことができた。古墳時代中期以降、多くの渡来民が移り住むことで、列島社会は複雑化するとともに、基層社会も変容し文明化するのであった。

岡山I.C.

●岡山商科大学

●岡山大学

●岡山理科大学

53

岡山県総合グラウンド

岡山商科大学
附属高校

岡山ロイヤルホテル

ノートルダム清心女子大学

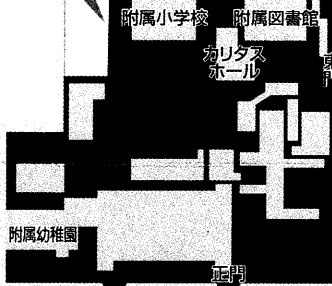
東門

53



岡山工業
高校

岡山進研
学院



岡山済生会総合病院

済生会病院前

正門

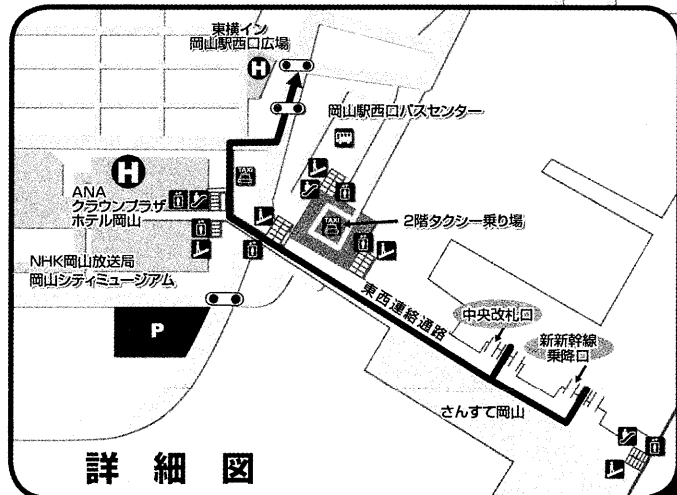
清心町
交差点

郵便局
中国銀行

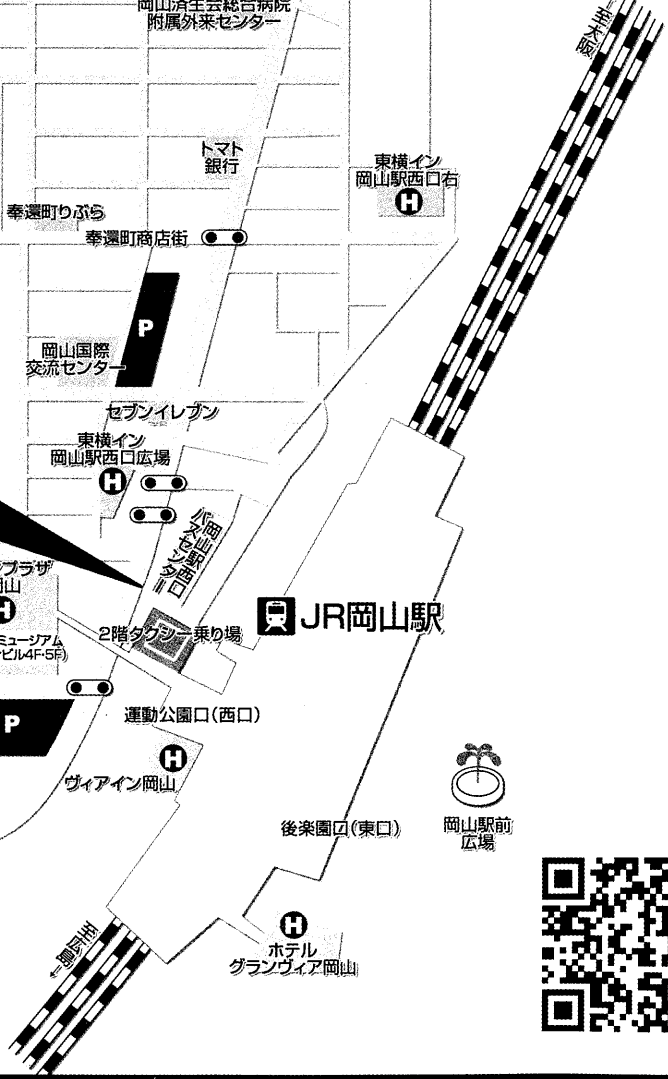
ファミリー
マート

一宮・吉備津 方面
岡山県警
伊福町庁舎

至 備前・後楽園 方面

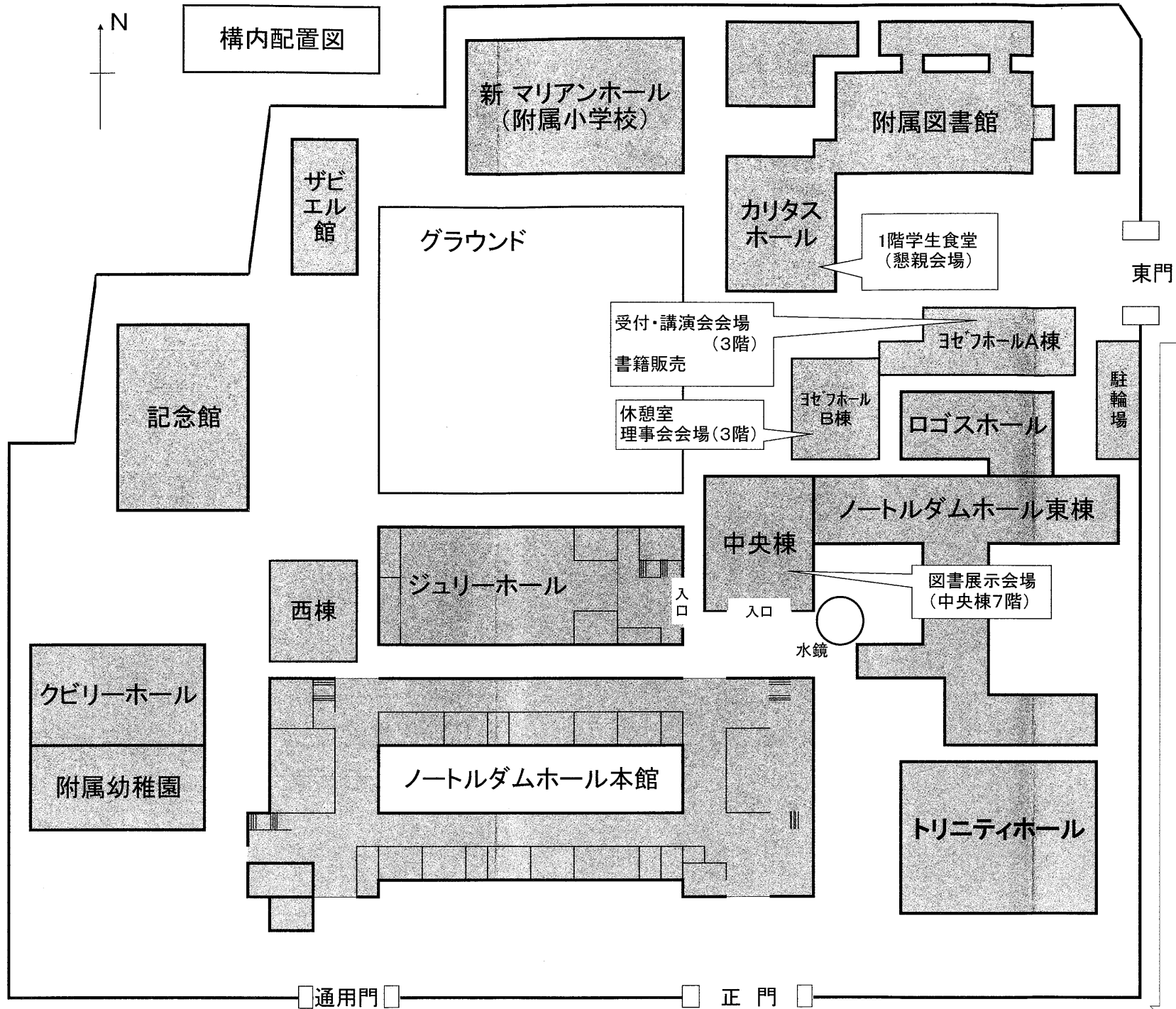


詳細図



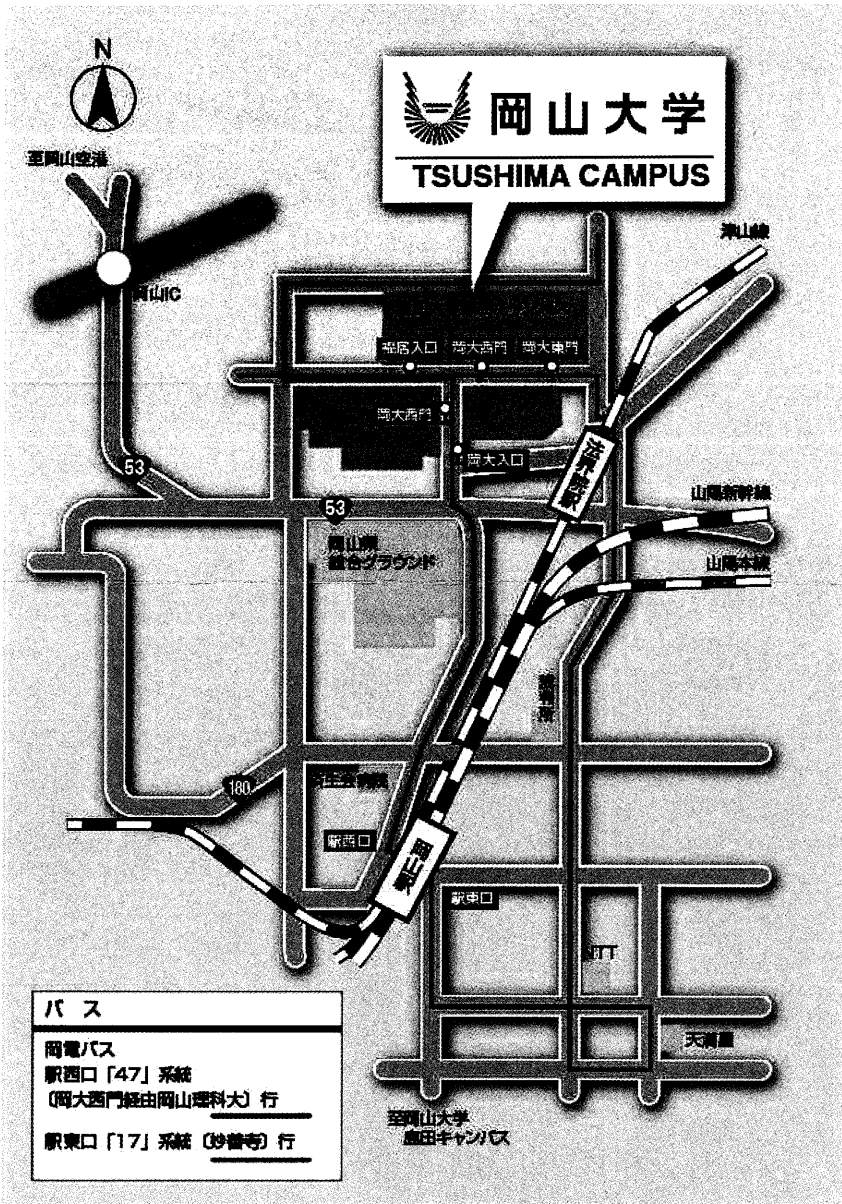
- J R/岡山駅(西口)から北へ徒歩約10分
- バス/岡電バス又は中鉄バスのいずれかで「済生会病院前」下車すぐ





- 講演会会場
ヨゼフホール 3階 ヨゼフ300
 - 懇親会会場 (5月18日)
カリタスホール 1階
学生食堂
 - 図書展示会場
中央棟 7階 特殊文庫展示室
5月18日 (土)
9時30分～18時
- * コンビニは大学近くに2件ございます。

岡山駅



行き

【鉄道】

岡山駅で津山線に乗り換え法界院下車
徒歩 10分

(岡山駅発 8:53 9:50)

【バス】

岡山駅西口から岡山理科大学行きバス7分

岡大西門 下車 徒歩8分

(岡山駅西口発 9:00 9:20 9:45)

帰り

【鉄道】

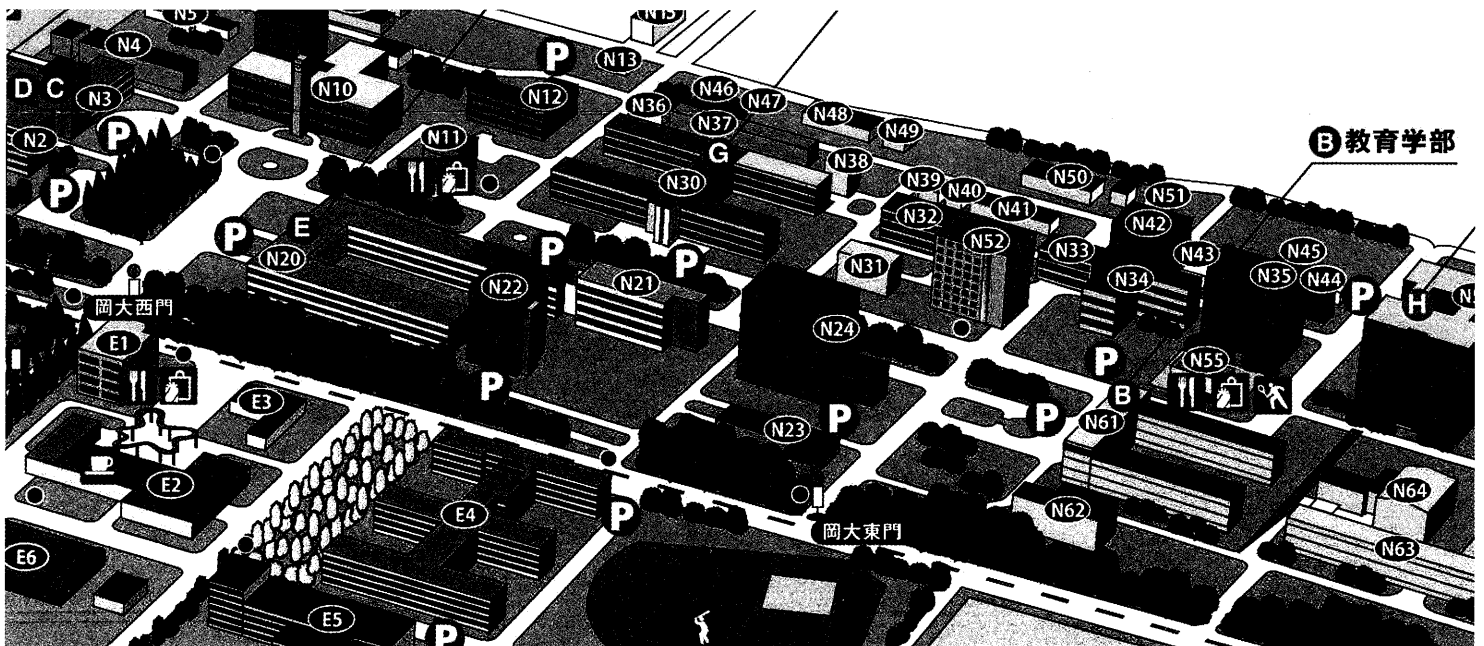
法界院駅発 16:34 16:59 18:01

【バス】

岡大東門 発 16:27 16:54 17:21

※帰りのバスは渋滞が見込まれます。

列車のご利用をお勧めします。



* 5月19日(日)の会場は岡山大学教育学部講義棟(N62)です

* Google Map … 「岡山大学教育学部」で検索して下さい